

基発0928第3号

令和5年9月28日

都道府県労働局長 殿

厚生労働省労働基準局長

(公 印 省 略)

作業環境測定記録のモデル様式の改正について

標記については、作業環境管理を適切に進めるため、昭和57年2月4日付け基発第85号「作業環境測定モデル様式について」において作業環境測定記録のモデル様式（以下「モデル様式」という。）を定め、以降数次にわたって内容の改正を行い、その周知に努めてきたところである。

今般、作業環境測定基準及び第三管理区分に区分された場所に係る有機溶剤等の濃度の測定の方法等の一部を改正する告示（令和5年厚生労働省告示第174号）により、令和5年10月1日から個人サンプリング法の対象物質等に粉じん（遊離けい酸の含有率が極めて高いものを除く。）等が追加されたところである。

これを踏まえ、個人サンプリング法用（粉じん用）の様式を加える等を行い、既存のモデル様式を別添のとおり改めるので、作業環境測定機関及び自社測定事業場に対して、改正後のモデル様式を活用するよう指導されたい。

作業環境測定結果報告書（証明書）

殿

貴事業場より委託を受けた作業環境測定の結果は、下記及び別紙作業環境測定結果記録表に記載したとおりであることを証明します。

測定を実施した作業環境測定機関

① 名 称		② 代表者職氏名	
		②－(2) 作業環境測定結果 の管理を担当する者の氏名	
③ 所在地（TEL、FAX）			
④ 登録番号		⑤ 作業環境測定に関する精度 管理事業への参加の有無	無 有（ 年度 参加 No. ）
⑥ 連絡担当作業環境測定士氏名		⑦ 登録に係る指定作業場の種類	第 1 2 3 4 5
		⑦－(2) 個人サンプリング法 が実施できる旨の登録の有無	有 ・ 無

測定を委託した事業場等

⑧ 名称	
⑨ 所在地（TEL、FAX）	

記

- 測定を実施した単位作業場所の名称：
- 測定した物質の名称及び管理濃度：
- 測定年月日（1日目） 年 月 日（2日目） 年 月 日
- 測定結果

測 定 日		1 日目	2 日目	1 日目と 2 日目の総合	区分
A・C測定結果 〔幾何平均値〕	A・C	$M_1 = ()$	$M_2 = ()$	$M = ()$	I II III
B・D測定値	B・D	$()$			I II III

()内には単位〔ppm・mg/m³・f/cm³・無次元〕を記入

管理区分 (作業環境管理の状態)	第 1 管理区分 (適 切)	第 2 管理区分 (なお改善の余地)	第 3 管理区分 (適切でない)
---------------------	-------------------	-----------------------	---------------------

【事業場記入欄】（以下については事業場の責任において記入すること）

作成者職氏名		作成年月日	年 月 日
--------	--	-------	-------

(1) 当該単位作業場所における管理区分等の推移（過去4回）

測定年月	年 月	年 月	年 月	年 月(前回)
A・C 測定結果	I II III (A・C)	I II III (A・C)	I II III (A・C)	I II III (A・C)
B・D 測定結果	I II III (B・D)	I II III (B・D)	I II III (B・D)	I II III (B・D)
管理区分	第1 第2 第3	第1 第2 第3	第1 第2 第3	第1 第2 第3

(2) 衛生委員会、安全衛生委員会又はこれに準ずる組織の意見

(3) 産業医又は労働衛生コンサルタントの意見（第三管理区分改善困難等の場合は、作業環境管理専門家の意見）

(4) 作業環境改善措置の内容

作業環境測定結果記録表（A 粉じん用）

報告書（証明書）番号

1 測定を実施した作業環境測定士

⑪ 氏名	⑫ 登録番号	実施項目の別		
	—	デザイン	サンプリング	分析
	—	デザイン	サンプリング	分析
	—	デザイン	サンプリング	分析
	—	デザイン	サンプリング	分析
	—	デザイン	サンプリング	分析

2 測定対象物質等

⑬ 粉じん則別 表第2の号 別区分		⑭ 鉱物等の 粉じんの 名称		⑮ 取扱量	／月
-------------------------	--	----------------------	--	-------	----

3 サンプリング実施日時

⑯ A測定	日 別	実 施 日	開始時刻（イ）	終了時刻（ロ）	時間（ロ）－（イ）
	1日目	年 月 日	時 分	時 分	分間
	2日目	年 月 日	時 分	時 分	分間
⑰ B測定		年 月 日	時 分	時 分	分間

4 単位作業場所等の概要

⑲ 単位作業場所の番号等		⑳ A測定の測定点の数	1日目		2日目	
㉑ 単位作業場所の広さ	m ²	㉒ A測定の測定値の数	1日目		2日目	
㉓ 単位作業場所について						
(1) 有害物の分布の状況（発生源の特定、有害物の拡散状況とその範囲）						
(2) 労働者の作業中の行動範囲						
(3) 単位作業場所の範囲を決定した理由						

㊦ 併行測定を行う測定点を決定した理由

(1) 粉じんの粒径の大きさ (特に、発じん時)

(2) 気流の影響

(3) 発生源からの距離

㊧ B測定 of 測定点と測定時刻を決定した理由

(1) 発生源に近接する場所における作業

(2) 濃度が最も高くなると思われる作業位置

(3) 濃度が最も高くなると思われる時間

㊨ A測定 of 測定点の数を 5 点未満に決定した理由

(1) 単位作業場所の広さ

(2) 過去における測定の記録

㊨-(2) A測定点の間隔を 6m 超に決定した理由

(1) 過去における測定の記録

5 全体図、単位作業場所の範囲、主要な設備、発生源、測定点の配置等を示す図面(5ミリ方眼)

事業場名		作業場名	
<!-- Grid pattern -->			
〔記号〕 ①、②、③……：A測定点 ㊦：B測定点 ●：併行測定点 ㊦：発生源 ：囲い式フード ：外付け式フード ：上昇気流 ：下降気流 ：気流方向 ：気流滞留状態 ：労働者位置 ：労働者移動位置 ：気流拡散状態 ：気象測定地点 ：換気扇 ：扇風機 ：プッシュプル ※単位作業場所の縦・横の寸法は必ず記入すること。その他必要事項については記載要領を参照。			

6 測定データの記録

〔A測定データ〕

③② 測定 方法 ③④ No.	1 日目		2 日目		③② 測定 方法 ③④ No.	1 日目		2 日目	
	③③ 相対濃度 ()	③⑤ 質量濃度 (mg/m ³)	③③ 相対濃度 ()	③⑤ 質量濃度 (mg/m ³)		③③ 相対濃度 ()	③⑤ 質量濃度 (mg/m ³)	③③ 相対濃度 ()	③⑤ 質量濃度 (mg/m ³)
1					11				
2					12				
3					13				
4					14				
5					15				
6					16				
7					17				
8					18				
9					19				
10					20				

〔B測定データ〕

③⑧ C _{B1}				
C _{B2}				
C _{B3}				

7 サンプルング実施時の状況

③⑨ サンプルング実施時に当該単位作業場所で行われていた作業、設備の稼働状況等及び測定値に影響を及ぼしたと考えられる事項の概要
〔作業工程と発生源及び労働者数〕

〔設備、排気装置の稼働状況〕

〔ドア、窓の開閉、気流の状況〕

〔当該単位作業場所の周辺からの影響〕

〔各測定点に関する特記事項〕

天候		温度	℃	湿度	%	気流	～	m/s
----	--	----	---	----	---	----	---	-----

8 粉じん濃度の測定に使用した機器等 (1日目、2日目)

イ 分粒装置を用いるろ過捕集方法及び重量分析方法

ロ 相対濃度指示方法

イ	質量濃度 測定	④① サンプラーの 名称及び型式		④② 分粒装置の 名称及び型式	
		④③ 吸引流量	L/min	④④ 捕集時間	分間
		④④ー(2) 天秤の機器名及び 型式 (読取限度)	(mg)	④④ー(3) ろ過材 の種類	
ロ	相対濃度 測定 (併行測定)	④⑤ 使用機器名		④⑥ 型式	
		④⑦ 較正年月日	年 月 日	④⑧ 較正証番号	
		④⑧ー(2) サンプリング時間	分間		
	相対濃度 測定 (A・B 測定)	④⑤ 使用機器名		④⑥ 型式	
		④⑦ 較正年月日	年 月 日	④⑧ 較正証番号	
		④⑧ー(3) A測定のスプリング時間	分間 (分間隔)		

9 質量濃度変換係数の決定

併行測定の実施		⑤① 相対濃度	[]		⑤③ 捕集時間	分間	⑤③ー(2) 粉じん量	mg	
		⑤② 質量濃度	mg/m ³		⑤④ 質量濃度変換係数	K =			
過去の値 の利用		測定実施日	相対濃度 []	質量濃度 mg/m ³	捕集時間 分間	質量濃度 変換係数	過去の値 の利用		
							較正年月日	較正証番号	
	1 回目							1 回目	
	2 回目							2 回目	
	3 回目							3 回目	
	4 回目							4 回目	
		⑤⑤ 質量濃度変換係数	K =						
厚生労働 省労働基 準局長が 示す数値		⑥① 質量濃度変換係数	K =						

10 遊離けい酸含有率の測定

㉑ 測定方法	エックス線回折法（使用機器名及び型式： ）		
	りん酸法	その他（ ）	
㉑－（２） 自機関・外部委託	自機関	外部委託（委託機関名： ）	
		（機関登録番号： ）	
		（測定者： ）	
		（作業環境測定士登録番号： ）	
㉒ 試料の種類	浮遊粉じん	堆積粉じん	原材料
粒度調整方法	再発じん法	液相沈降法	その他（ ）
㉒－（２） 定性結果	石英	クリストバライト	トリジマイト なし
㉒－（３） 定量結果	石英： クリストバライト： トリジマイト：		
㉓ 遊離けい酸含有率	$Q = \frac{\text{％}}{\text{（石英 } \text{％} + \text{クリストバライト } \text{％} + \text{トリジマイト } \text{％）}}$		
㉓－（２） 分析日	年 月 日～ 年 月 日（ 日間）		

11 測定結果

	区 分	1 日 目	2 日 目	M及びσ
A測定	㉗ 幾何平均値	$M_1 = \text{mg/m}^3$	$M_2 = \text{mg/m}^3$	$M = \text{mg/m}^3$
	㉘ 幾何標準偏差	$\sigma_1 =$	$\sigma_2 =$	$\sigma =$
	㉙ 第1評価値	$E_{A1} = \text{mg/m}^3$		
	㉚ 第2評価値	$E_{A2} = \text{mg/m}^3$		
B測定	㉛	$C_B = \text{mg/m}^3$		

12 評価

㉜ 評価日	年 月 日		
㉝ 評価箇所	㉑の単位作業場所と同じ		
評価結果	㉞ 管理濃度	$E = 3.0 / (1.19Q + 1) = \text{mg/m}^3$	
	㉟ A測定の結果	$E_{A1} < E$	$E_{A1} \geq E \geq E_{A2}$ $E_{A2} > E$
	㊱ B測定の結果	$C_B < E$	$E \times 1.5 \geq C_B \geq E$ $C_B > E \times 1.5$
	㊲ 管理区分	第1	第2 第3
㊳ 評価を実施した者の氏名			

作業環境測定結果記録表（B 特定化学物質、鉛、有機溶剤、石綿用）

報告書（証明書）番号

1 測定を実施した作業環境測定士

⑪ 氏名	⑫ 登録番号	実施項目の別		
	—	デザイン	サンプリング	分析
	—	デザイン	サンプリング	分析
	—	デザイン	サンプリング	分析
	—	デザイン	サンプリング	分析
	—	デザイン	サンプリング	分析

2 測定対象物質等

当該単位作業場所において製造し、又は取り扱う物質		⑬ 種類		⑭ 名称		⑮ 製造又は取扱量	
		特１・特２・有１・有２・鉛・石・その他				／月	
						／月	
						／月	
⑯ 当該単位作業場所で行われる業務の概要							
⑰ 測定対象物質の名称							
⑱ 成分 指数の 計算	含有率（％）						
	<i>t</i> の 値						
	成分指数	<i>F</i> ＝					

3 サンプリング実施日時

	日 別	実 施 日	開始時刻（イ）	終了時刻（ロ）	時間（ロ）－（イ）
⑲ A測定	1日目	年 月 日	時 分	時 分	分間
	2日目	年 月 日	時 分	時 分	分間
⑳ B測定		年 月 日	時 分	時 分	分間

4 単位作業場所等の概要

㉑ 単位作業場所番号等		㉓ A測定の測定点の数	1日目		2日目	
㉒ 単位作業場所の広さ	m ²	㉔ A測定の測定値の数	1日目		2日目	
㉕ 単位作業場所について						
(1) 有害物の分布の状況（発生源の特定、有害物の拡散状況とその範囲）						
(2) 労働者の作業中の行動範囲						
(3) 単位作業場所の範囲を決定した理由						

㉔ 併行測定を行う測定点を決定した理由

㉕ B 測定の測定点と測定時刻を決定した理由

(1) 発生源に近接する場所における作業

(2) 濃度が最も高くなると思われる作業位置

(3) 濃度が最も高くなると思われる時間

㉖ A 測定の測定点の数を 5 点未満に決定した理由

(1) 単位作業場所の広さ

(2) 過去における測定の記録

㉖－(2) A 測定の測定点の間隔を 6m 超に決定した理由

(1) 過去における測定の記録

㉗ 測定に係る監督署長許可の有無

有 (許可年月日 年 月 日 許可番号) 無

5 全体図、単位作業場所の範囲、主要な設備、発生源、測定点の配置等を示す図面（5ミリ方眼）

事業場名		作業場名	
〔記号〕 ①、②、③……：A測定点 ㊦：B測定点 ●：併行測定点 ☒：発生源 ：囲い式フード ：外付け式フード ：気流方向 ：気流滞留状態 ：上昇気流 ：下降気流 ：気流拡散状態 ：気象測定地点 ：労働者位置 ：労働者移動位置 ：単位作業場所の範囲 ：換気扇 ：扇風機 ：プッシュプル ※単位作業場所の縦・横の寸法は必ず記入すること。その他必要事項については記載要領を参照。			

6 測定データの記録（1日目、2日目）

〔A測定データ〕

〔単位：ppm・mg/m³・f/cm³〕

③⑩ 測定対象 物質の名称											
③⑪ 管理濃度等	$E_① =$		$E_② =$		$E_③ =$		$E_④ =$		$E_⑤ =$		$E = 1$
③⑭ No.	③⑮ $C_①$	③⑯ $\frac{C_①}{E_①}$	③⑰ $C_②$	③⑱ $\frac{C_②}{E_②}$	③⑲ $C_③$	③⑳ $\frac{C_③}{E_③}$	③㉑ $C_④$	③㉒ $\frac{C_④}{E_④}$	③㉓ $C_⑤$	③㉔ $\frac{C_⑤}{E_⑤}$	③㉕ $\sum_{i=1}^n \frac{C_i}{E_i}$
1											
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20											

〔B測定データ〕

③⑧	C_{B1}										
	C_{B2}										
	C_{B3}										

7 サンプルング実施時の状況

③⑨ サンプルング実施時に当該単位作業場所で行われていた作業、設備の稼働状況等及び測定値に影響を及ぼしたと考えられる事項の概要

〔作業工程と発生源及び労働者数〕

〔設備、排気装置の稼働状況〕

〔ドア、窓の開閉、気流の状況〕

〔当該単位作業場所の周辺からの影響〕

〔各測定点に関する特記事項〕

天候		温度	℃	湿度	%	気流	～	m/s
----	--	----	---	----	---	----	---	-----

8 試料採取方法等

④① 試料採取方法	直接・液体・固体・ろ過・検知管（ ）用）・その他（ ）		
④② 捕集剤、捕集器具及び型式		④③ 吸引流量	L/min
④④ 捕集時間	分間（ 分間隔）	④⑦ 捕集量	L

9 分析方法等

④⑧ 分析方法	吸光光度・蛍光光度・原子吸光・誘導結合プラズマ質量分析・ガスクロマトグラフ・重量分析・計数・高速液体クロマトグラフ・検知管・その他（ ）		
④⑨ 使用機器名及び型式			
④⑨－（２） 分析日	年 月 日～ 年 月 日（ 日間）		

10 測定値（換算値）変換係数の決定（監督署長許可の場合のみ記入）

1 日目	⑤① 検知管指示値	ppm	⑤③ 捕集時間	分間
	⑤② 測定値（換算値）		⑤④ 測定値（換算値）変換係数	
2 日目	⑤⑤ 検知管指示値	ppm	⑤⑦ 捕集時間	分間
	⑤⑥ 測定値（換算値）		⑤⑧ 測定値（換算値）変換係数	

11 測定結果

〔単位：ppm・mg/m³・f/cm³・無次元〕

	区 分	1 日目	2 日目	M及びσ
A測定	⑦① 幾何平均値	M ₁ ＝	M ₂ ＝	M＝
	⑦② 幾何標準偏差	σ ₁ ＝	σ ₂ ＝	σ＝
	⑦③ 第1評価値	E _{A1} ＝		
	⑦④ 第2評価値	E _{A2} ＝		
B測定	⑦⑤	C _B ＝		

12 評価

⑦⑨ 評価日		年 月 日		
⑦⑩ 評価箇所		②①の単位作業場所と同じ		
評価結果	⑧① 管理濃度	E = [ppm・mg/m ³ ・f/cm ³ ・無次元]		
	⑧② A測定の結果	E _{A1} < E	E _{A1} ≥ E ≥ E _{A2}	E _{A2} > E
	⑧③ B測定の結果	C _B < E	E × 1.5 ≥ C _B ≥ E	C _B > E × 1.5
	⑧④ 管理区分	第 1	第 2	第 3
⑦⑮ 評価を実施した者の氏名				

報告書（証明書）番号

⑪ 氏名	⑫ 登録番号	実施項目の別		
	—	デザイン	サンプリング	分析
	—	デザイン	サンプリング	分析
	—	デザイン	サンプリング	分析
	—	デザイン	サンプリング	分析
	—	デザイン	サンプリング	分析

⑬ 粉じん則別 表第2の号 別区分	⑭ 鉱物等の 粉じんの 名称	⑮ 取扱量	／月
-------------------------	----------------------	-------	----

⑬ C測定	日 別	実 施 日	開始時刻 (イ)	終了時刻 (ロ)	時間 (ロ) - (イ)
	1 日 目	年 月 日	時 分	時 分	分間
	2 日 目	年 月 日	時 分	時 分	分間
⑭ D測定		年 月 日	時 分	時 分	分間

㉑	単位作業場所の番号等		㉓	C測定の実働者の数	1日目		2日目	
㉒	単位作業場所の広さ	m ²	㉔	C測定の実定値の数	1日目		2日目	
㉕	単位作業場所について							
(1) 有害物の分布の状況 (発生源の特定、有害物の拡散状況とその範囲)								
(2) 実働者の実働中の行動範囲及び実働時間 (有害物ばく露実働に従事するすべての実働者に係るもの)								
(3) 単位作業場所の範囲を決定した理由								

㉔ 併行測定を行う労働者を決定した理由

- (1) 労働者の作業中の行動範囲及び作業時間（選定理由も含めて記載すること。）

㉕ C測定のスランプリング計画（判断理由も含めて記載すること。）

- (1) 均等ばく露作業の内容及び場所

- (2) 均等ばく露作業内の試料採取機器装着者の人数及び作業内容

- (3) 試料採取等の時間（時刻）

- (4) 均等ばく露作業の労働者数が5人未満であって、試料採取時間を均等に分割した場合は、採取試料数及び試料採取時間等

㉕－(2) C測定のス測定時間の短縮を決定した理由

- (1) 作業の内容及び「同一の作業を反復する等労働者にばく露される粉じん（遊離けい酸の含有率が極めて高いものを除く。）の濃度がほぼ均一であることが見込まれるもの」に該当する理由

- (2) 試料採取時間（時刻）（2時間を下回らない範囲内であること。）

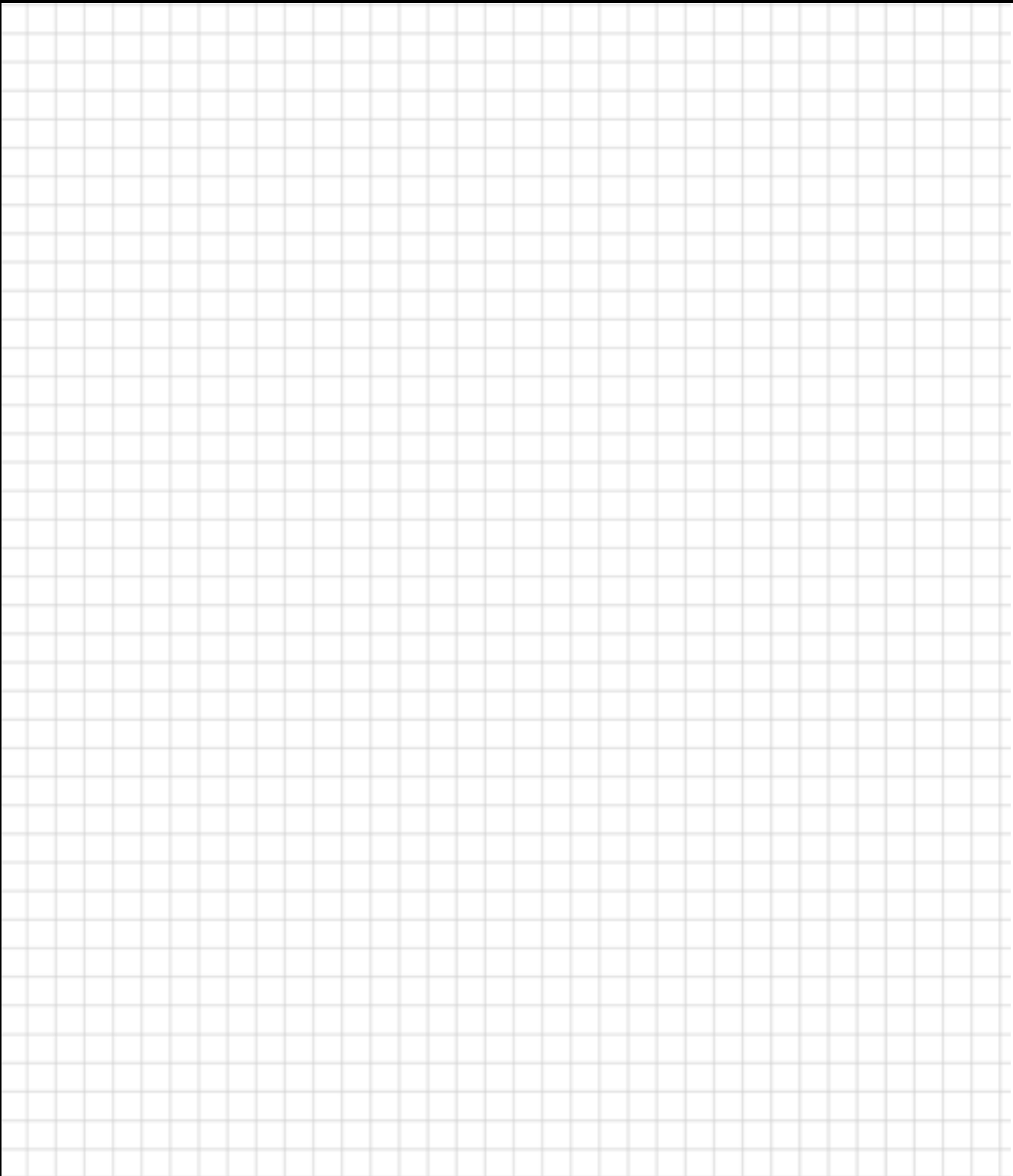
㉖ D測定を行う労働者と測定時刻（判断理由も含めて記載すること。）

- (1) 発生源に近接する場所における作業の内容

- (2) 濃度が最も高くなると思われる時間（時刻）

- (3) (1)の作業に従事する（D測定の対象となる）労働者の番号及び選定理由

5 全体図、単位作業場所の範囲、主要な設備、発生源、労働者の配置及び作業中の行動範囲等を示す図面
(5ミリ方眼)

事業場名	作業場名																																
																																	
〔記号〕 ①、②、③……：C測定 of 労働者 ④：D測定 of 労働者 ㊦：発生源 <table><tbody><tr><td></td><td>： 囲い式フード</td><td></td><td>： 外付け式フード</td><td></td><td>： 気流方向</td><td></td><td>： 気流滞留状態</td></tr><tr><td></td><td>： 上昇気流</td><td></td><td>： 下降気流</td><td></td><td>： 気流拡散状態</td><td></td><td>： 気象測定地点</td></tr><tr><td></td><td>： 労働者位置</td><td></td><td>： 労働者移動位置</td><td></td><td>： 単位作業場所の範囲</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>： 換気扇</td><td></td><td>： 扇風機</td><td></td><td>： プッシュプル</td><td></td><td></td></tr></tbody></table> ※単位作業場所の縦・横の寸法は必ず記入すること。 図面の空欄又は別紙に試料採取機器等の吸入口の装着位置を図示すること（写真の貼付によることも可能であること。）。その他必要事項については記載事項を参照。			： 囲い式フード		： 外付け式フード		： 気流方向		： 気流滞留状態		： 上昇気流		： 下降気流		： 気流拡散状態		： 気象測定地点		： 労働者位置		： 労働者移動位置		： 単位作業場所の範囲				： 換気扇		： 扇風機		： プッシュプル		
	： 囲い式フード		： 外付け式フード		： 気流方向		： 気流滞留状態																										
	： 上昇気流		： 下降気流		： 気流拡散状態		： 気象測定地点																										
	： 労働者位置		： 労働者移動位置		： 単位作業場所の範囲																												
	： 換気扇		： 扇風機		： プッシュプル																												

6 測定データの記録

〔C測定データ〕

③② 測定 方法 ③④ No. (労働者番号)	1 日目		2 日目		③② 測定 方法 ③④ No.	1 日目		2 日目	
	③③ 相対濃度 ()	③⑤ 質量濃度 (mg/m ³)	③③ 相対濃度 ()	③⑤ 質量濃度 (mg/m ³)		③③ 相対濃度 ()	③⑤ 質量濃度 (mg/m ³)	③③ 相対濃度 ()	③⑤ 質量濃度 (mg/m ³)
1 ()					11 ()				
2 ()					12 ()				
3 ()					13 ()				
4 ()					14 ()				
5 ()					15 ()				
6 ()					16 ()				
7 ()					17 ()				
8 ()					18 ()				
9 ()					19 ()				
10 ()					20 ()				

〔D測定データ〕

③⑧ C _{D1} ()				
C _{D2} ()				
C _{D3} ()				

7 サンプルング実施時の状況

③⑨ サンプルング実施時に当該単位作業場所で行われていた作業、設備の稼働状況等及び測定値に影響を及ぼしたと考えられる事項の概要
〔作業工程と発生源及び労働者数〕

〔設備、排気装置の稼働状況〕

〔ドア、窓の開閉、気流の状況〕

〔当該単位作業場所の周辺からの影響〕

〔各労働者のサンプルング状況、試料採取機器装着者の労働者番号と測定データ番号の対応関係〕

天候		温度	℃	湿度	%	気流	～	m/s
----	--	----	---	----	---	----	---	-----

8 粉じん濃度の測定に使用した機器等 (1日目、2日目)

イ 分粒装置を用いるろ過捕集方法及び重量分析方法

労働者番号 ()	㉑ サンプラーの 名称及び型式		㉒ 分粒装置の 名称及び型式	
質量濃度	㉓ 吸引流量	L/min	㉔ 捕集時間	分間
測定	㉔－(2) 天秤の機器名及び 型式 (読取限度)	(mg)	㉔－(3) ろ過材 の種類	
労働者番号 ()	㉑ サンプラーの 名称及び型式		㉒ 分粒装置の 名称及び型式	
質量濃度	㉓ 吸引流量	L/min	㉔ 捕集時間	分間
測定	㉔－(2) 天秤の機器名及び 型式 (読取限度)	(mg)	㉔－(3) ろ過材 の種類	
労働者番号 ()	㉑ サンプラーの 名称及び型式		㉒ 分粒装置の 名称及び型式	
質量濃度	㉓ 吸引流量	L/min	㉔ 捕集時間	分間
測定	㉔－(2) 天秤の機器名及び 型式 (読取限度)	(mg)	㉔－(3) ろ過材 の種類	
労働者番号 ()	㉑ サンプラーの 名称及び型式		㉒ 分粒装置の 名称及び型式	
質量濃度	㉓ 吸引流量	L/min	㉔ 捕集時間	分間
測定	㉔－(2) 天秤の機器名及び 型式 (読取限度)	(mg)	㉔－(3) ろ過材 の種類	
労働者番号 ()	㉑ サンプラーの 名称及び型式		㉒ 分粒装置の 名称及び型式	
質量濃度	㉓ 吸引流量	L/min	㉔ 捕集時間	分間
測定	㉔－(2) 天秤の機器名及び 型式 (読取限度)	(mg)	㉔－(3) ろ過材 の種類	

ロ 相対濃度指示方法（C測定）

併 行 測 定	労働者番号 () 質量濃度 測定	④① サンプラーの 名称及び型式		④② 分粒装置の 名称及び型式	
		④③ 吸引流量	L/min	④④ 捕集時間	分間
		④④－(2) 天秤の機器名及び 型式（読取限度）	(mg)	④④－(3) ろ過材 の種類	
	労働者番号 () 相対濃度 測定 (併行測定)	④⑤ 使用機器名		④⑥ 型式	
		④⑦ 校正年月日	年 月 日	④⑧ 校正証番号	
④⑧－(2) サンプリング時間		分間			
相 対 濃 度 測 定	労働者番号 () 相対濃度 測定 (C測定)	④⑤ 使用機器名		④⑥ 型式	
		④⑦ 校正年月日	年 月 日	④⑧ 校正証番号	
		④⑧－(3) C測定のスプリング時間			分間(分間隔)
	労働者番号 () 相対濃度 測定 (C測定)	④⑤ 使用機器名		④⑥ 型式	
		④⑦ 校正年月日	年 月 日	④⑧ 校正証番号	
		④⑧－(3) C測定のスプリング時間			分間(分間隔)
	労働者番号 () 相対濃度 測定 (C測定)	④⑤ 使用機器名		④⑥ 型式	
		④⑦ 校正年月日	年 月 日	④⑧ 校正証番号	
		④⑧－(3) C測定のスプリング時間			分間(分間隔)
	労働者番号 () 相対濃度 測定 (C測定)	④⑤ 使用機器名		④⑥ 型式	
		④⑦ 校正年月日	年 月 日	④⑧ 校正証番号	
		④⑧－(3) C測定のスプリング時間			分間(分間隔)
	労働者番号 () 相対濃度 測定 (C測定)	④⑤ 使用機器名		④⑥ 型式	
		④⑦ 校正年月日	年 月 日	④⑧ 校正証番号	
		④⑧－(3) C測定のスプリング時間			分間(分間隔)

ハ 相対濃度指示方法（D測定）

併行測定	労働者番号 () 質量濃度 測定	④① サンプラーの 名称及び型式		④② 分粒装置の 名称及び型式	
		④③ 吸引流量	L/min	④④ 捕集時間	分間
		④④－(2) 天秤の機器名及び 型式（読取限度）	(mg)	④④－(3) ろ過材 の種類	
	労働者番号 () 相対濃度 測定 (併行測定)	④⑤ 使用機器名		④⑥ 型式	
		④⑦ 較正年月日	年 月 日	④⑧ 較正証番号	
		④⑧－(2) サンプリング時間	分間		
相対濃度測定	労働者番号 () 相対濃度 測定 (D測定)	④⑤ 使用機器名		④⑥ 型式	
		④⑦ 較正年月日	年 月 日	④⑧ 較正証番号	
		④⑧－(3) D測定のサンプリング時間	分間(分間隔)		
	労働者番号 () 相対濃度 測定 (D測定)	④⑤ 使用機器名		④⑥ 型式	
		④⑦ 較正年月日	年 月 日	④⑧ 較正証番号	
		④⑧－(3) D測定のサンプリング時間	分間(分間隔)		
	労働者番号 () 相対濃度 測定 (D測定)	④⑤ 使用機器名		④⑥ 型式	
		④⑦ 較正年月日	年 月 日	④⑧ 較正証番号	
		④⑧－(3) D測定のサンプリング時間	分間(分間隔)		
	労働者番号 () 相対濃度 測定 (D測定)	④⑤ 使用機器名		④⑥ 型式	
		④⑦ 較正年月日	年 月 日	④⑧ 較正証番号	
		④⑧－(3) D測定のサンプリング時間	分間(分間隔)		
	労働者番号 () 相対濃度 測定 (D測定)	④⑤ 使用機器名		④⑥ 型式	
		④⑦ 較正年月日	年 月 日	④⑧ 較正証番号	
		④⑧－(3) D測定のサンプリング時間	分間(分間隔)		
	労働者番号 () 相対濃度 測定 (D測定)	④⑤ 使用機器名		④⑥ 型式	
		④⑦ 較正年月日	年 月 日	④⑧ 較正証番号	
		④⑧－(3) D測定のサンプリング時間	分間(分間隔)		

9 質量濃度変換係数の決定

併行測定の実施		⑥① 相対濃度	[]		⑥③ 捕集時間	分間	⑥③－(2) 粉じん量	mg	
		⑥② 質量濃度	mg/m ³		⑥④ 質量濃度変換係数		K =		
過去の値 の利用	測定実施日	相対濃度 []	質量濃度 mg/m ³	捕集時間 分間	質量濃度 変換係数	相対濃度計の較正 較正年月日 較正証番号			
	1回目								
	2回目								
	3回目								
	4回目								
	⑥⑤ 質量濃度変換係数	K =							
厚生労働 省労働基 準局長が 示す数値	⑥⑥ 質量濃度変換係数	K =							

10 遊離けい酸含有率の測定

⑥① 測定方法	エックス線回折法（使用機器名及び型式：） りん酸法 その他（）		
⑥①－（２） 自機関・外部委託	自機関 外部委託（委託機関名：） （機関登録番号：） （測定者：） （作業環境測定士登録番号：）		
⑥② 試料の種類	浮遊粉じん	堆積粉じん	原材料
粒度調整方法	再発じん法 液相沈降法 その他（）		
⑥②－（２） 定性結果	石英	クリストバライト	トリジマイト なし
⑥②－（３） 定量結果	石英： クリストバライト： トリジマイト：		
⑥③ 遊離けい酸含有率	$Q = \frac{\text{（石英）} \% + \text{（クリストバライト）} \% + \text{（トリジマイト）} \%}{100}$		
⑥③－（２） 分析日	年 月 日～年 月 日（ 日間）		

11 測定結果

	区 分	1 日 目	2 日 目	M及びσ
C 測定	⑦① 幾何平均値	$M_1 = \text{mg/m}^3$	$M_2 = \text{mg/m}^3$	$M = \text{mg/m}^3$
	⑦② 幾何標準偏差	$\sigma_1 =$	$\sigma_2 =$	$\sigma =$
	⑦③ 第 1 評価値	$E_{c1} = \text{mg/m}^3$		
	⑦④ 第 2 評価値	$E_{c2} = \text{mg/m}^3$		
D 測定	⑦⑤	$C_D = \text{mg/m}^3$		

12 評価

⑦⑨ 評価日	年 月 日		
⑦⑩ 評価箇所	②①の単位作業場所と同じ		
評価結果	⑦⑪ 管理濃度	$E = 3.0 / (1.19Q + 1) = \text{mg/m}^3$	
	⑦⑫ C 測定の結果	$E_{c1} < E$	$E_{c1} \geq E \geq E_{c2}$ $E_{c2} > E$
	⑦⑬ D 測定の結果	$C_D < E$	$E \times 1.5 \geq C_D \geq E$ $C_D > E \times 1.5$
	⑦⑭ 管理区分	第 1	第 2 第 3
⑦⑮ 評価を実施した者の氏名			

作業環境測定結果記録表（D 個人サンプリング法用（特定化学物質、鉛、有機溶剤用））

報告書（証明書）番号

1 測定を実施した作業環境測定士

⑪ 氏名	⑫ 登録番号	実施項目の別		
	—	デザイン	サンプリング	分析
	—	デザイン	サンプリング	分析
	—	デザイン	サンプリング	分析
	—	デザイン	サンプリング	分析
	—	デザイン	サンプリング	分析

2 測定対象物質等

当該単位作業場所において製造し、又は取り扱う物質		⑬ 種類		⑭ 名称		⑮ 製造又は取扱量	
		特 1 ・ 特 2 ・ 有 1 ・ 有 2 ・ 鉛				／月	
						／月	
						／月	
⑯ 当該単位作業場所で行われる業務の概要							
⑰ 測定対象物質の名称							
⑱ 成分 指数の 計算	含有率 (%)						
	<i>t</i> の 値						
	成分 指 数	<i>F</i> =					

3 サンプリング実施日時

⑲ C測定	日 別	実 施 日	開始時刻（イ）	終了時刻（ロ）	時間（ロ）－（イ）
	1日目	年 月 日	時 分	時 分	分間
	2日目	年 月 日	時 分	時 分	分間
⑳ D測定		年 月 日	時 分	時 分	分間

4 単位作業場所等の概要

㉑ 単位作業場所の番号等		㉓ C測定の労働者の数	1日目		2日目	
㉒ 単位作業場所の広さ	m ²	㉔ C測定の測定値の数	1日目		2日目	
㉕ 単位作業場所について						
(1) 有害物の分布の状況（発生源の特定、有害物の拡散状況とその範囲）						
(2) 労働者の作業中の行動範囲及び作業時間（有害物ばく露作業に従事するすべての労働者に係るもの）						
(3) 単位作業場所の範囲を決定した理由						

㉗ C測定のスランプリング計画（判断理由も含めて記載すること）

（1） 均等ばく露作業の内容及び場所

（2） 均等ばく露作業内の試料採取機器装着者の人数及び作業内容

（3） 試料採取等の時間（時刻）

（4） 均等ばく露作業の労働者数が5人未満であって、試料採取時間を均等に分割した場合は、採取試料数及び試料採取時間等

㉗－（2） C測定のス測定時間の短縮を決定した理由

（1） 作業の内容及び「同一作業を反復する等労働者にばく露される化学物質等の濃度がほぼ均一であることが見込まれるもの」に該当する理由

（2） 試料採取時間（時刻）（2時間を下回らない範囲内であること。）

㉘ D測定を行う労働者と測定時刻（判断理由も含めて記載すること。）

（1） 発生源に近接する場所における作業の内容

（2） 濃度が最も高くなると思われる時間（時刻）

（3） （1）の作業に従事する（D測定の対象となる）労働者の番号及び選定理由

㉙ 測定に係る監督署長許可の有無

有 （許可年月日 年 月 日 許可番号 ） 無

5 全体図、単位作業場所の範囲、主要な設備、発生源、労働者の配置及び作業中の行動範囲等を示す図面（5ミリ方眼）

事業場名		作業場名	
〔記号〕 ①、②、③……：C測定労働者 ⑩：D測定労働者 ㊦：発生源 ：囲い式フード ：外付け式フード ：上昇気流 ：下降気流 ：労働者位置 ：労働者移動位置 ：換気扇 ：扇風機 ←：気流方向 ：気流滞留状態 ：気流拡散状態 ：気象測定地点 ：単位作業場所の範囲 ：プッシュプル ※単位作業場所の縦・横の寸法は必ず記入すること。 図面の空欄又は別紙に試料採取機器等の吸入口の装着位置を図示すること（写真の貼付によることも可能であること。）。その他必要事項については記載事項を参照。			

6 測定データの記録（1日目、2日目）

〔C測定データ〕

〔単位：ppm・mg/m³・f/cm³〕

③⑩ 測定対象 物質の名称											
③⑪ 管理濃度等	$E_①=$		$E_②=$		$E_③=$		$E_④=$		$E_⑤=$		$E=1$
③⑭ No. (労働者番号)	③⑮ $C_①$	③⑯ $\frac{C_①}{E_①}$	③⑮ $C_②$	③⑯ $\frac{C_②}{E_②}$	③⑮ $C_③$	③⑯ $\frac{C_③}{E_③}$	③⑮ $C_④$	③⑯ $\frac{C_④}{E_④}$	③⑮ $C_⑤$	③⑯ $\frac{C_⑤}{E_⑤}$	③⑰ $\sum_{i=1}^n \frac{C_i}{E_i}$
1 ()											
2 ()											
3 ()											
4 ()											
5 ()											
6 ()											
7 ()											
8 ()											
9 ()											
10 ()											
11 ()											
12 ()											
13 ()											
14 ()											
15 ()											
16 ()											
17 ()											
18 ()											
19 ()											
20 ()											

〔D測定データ〕

③⑱	C_{D1} ()											
	C_{D2} ()											
	C_{D3} ()											

7 サンプリング実施時の状況

- ③9 サンプリング実施時に当該単位作業場所で行われていた作業、設備の稼働状況等及び測定値に影響を及ぼしたと考えられる事項の概要
〔作業工程と発生源及び労働者数〕

〔設備、排気装置の稼働状況〕

〔ドア、窓の開閉、気流の状況〕

〔当該単位作業場所の周辺からの影響〕

〔各労働者のサンプリング状況、試料採取機器装着者の労働者番号と測定データ番号の対応関係〕

天候		温度	℃	湿度	%	気流	～	m/s
----	--	----	---	----	---	----	---	-----

8 試料採取方法等

④① 試料採取方法	直接・液体・固体・ろ過・検知管（ ）用）・その他（ ）			
④② 捕集剤、捕集器具及び型式				
C 測定	労働者番号	④③ 吸引流量	④④ 捕集時間	④⑦ 捕集量
	()	L/min	分間	L
	()	L/min	分間	L
	()	L/min	分間	L
	()	L/min	分間	L
	()	L/min	分間	L
	()	L/min	分間	L
D 測定	()	L/min	分間	L
	()	L/min	分間	L
	()	L/min	分間	L

9 分析方法等

④⑧ 分析方法	吸光光度・蛍光光度・原子吸光・誘導結合プラズマ質量分析・ガスクロマトグラフ・重量分析・計数・高速液体クロマトグラフ・検知管・その他（ ）
④⑨ 使用機器名及び型式	
④⑨－（２） 分析日	年 月 日～ 年 月 日（ 日間）

10 測定値（換算値）変換係数の決定（監督署長許可の場合のみ記入）

1 日目	⑤① 検知管指示値	ppm	⑤③ 捕集時間	分間
	⑤② 測定値（換算値）		⑤④ 測定値（換算値）変換係数	
2 日目	⑤⑤ 検知管指示値	ppm	⑤⑦ 捕集時間	分間
	⑤⑥ 測定値（換算値）		⑤⑧ 測定値（換算値）変換係数	

11 測定結果

〔単位：ppm・mg/m³・f/cm³・無次元〕

	区 分	1 日目	2 日目	M及びσ
C測定	⑦① 幾何平均値	M ₁ =	M ₂ =	M=
	⑦② 幾何標準偏差	σ ₁ =	σ ₂ =	σ=
	⑦③ 第 1 評価値	E _{C1} =		
	⑦④ 第 2 評価値	E _{C2} =		
D測定	⑦⑤	C _D =		

12 評価

⑦⑨ 評価日	年 月 日		
⑧⑩ 評価箇所	②①の単位作業場所と同じ		
評価 結果	⑧① 管理濃度	E = [ppm・mg/m ³ ・f/cm ³ ・無次元]	
	⑧② C測定の結果	E _{C1} < E	E _{C1} ≥ E ≥ E _{C2} E _{C2} > E
	⑧③ D測定の結果	C _D < E	E × 1.5 ≥ C _D ≥ E C _D > E × 1.5
	⑧④ 管理区分	第 1	第 2 第 3
⑧⑤ 評価を実施した者の氏名			

作業環境測定結果報告書(証明書)・作業環境測定結果記録表記載要領

- i 本報告書は、測定を実施した単位作業場所ごとに発行すること。
- ii 記載に当たっては、この記載要領を参照して測定結果を正しく記入すること。
- iii 「報告書(証明書)番号」は、後日この番号により測定内容を追跡できるように番号を付けること。

報告書(証明書) A様式・B様式・C様式・D様式共通

No.

- ②- (2) 作業環境測定結果を統括管理する作業環境測定士の氏名を記載すること。管理担当者には、作業環境測定インストラクターなど一定以上の能力を有する作業環境測定士が望ましいこと。
 - ⑤ 作業環境測定に関するデザイン、サンプリング及び分析技術に係る精度管理事業への参加の有無を記載すること。
 - ⑥ 事業場からの問い合わせに的確に回答できる当該単位作業場所の作業環境測定を実施した作業環境測定士氏名を記載すること。
 - ⑦ 「登録に係る指定作業場の種類」の欄は、該当する項目を○で囲むこと。
 - ⑦- (2) 「個人サンプリング法が実施できる旨の登録の有無」の欄は、該当する項目を○で囲むこと。
 - 1. 当該事業場(工場)で通常用いている作業場の名称を記入すること。
 - 2. 管理濃度の値は単位を付けて記入すること(混合溶剤の場合には混合溶剤と記載した上で、その主成分の物質名を記載し、管理濃度は換算値として「1(無次元)」と記載すること。)
 - 3. 2日目の測定を実施しなかった場合は該当欄に※印を記載すること。
 - 4. 「A・C測定結果」の「A・C」欄は、該当する項目を○で囲むこと。
 - ・「B・D測定値」の「B・D」欄は、該当する項目を○で囲むこと。
 - ・A・C測定結果の1日目、2日目の欄にはM₁、M₂を、「1日目と2日目の総合」欄にはMの値を記載すること(1日のみの場合は、「1日目と2日目の総合」欄にはM₁の値を記載すること。)
 - ・B・D測定値が定量下限の値に満たない場合には、定量下限の値を記入すること。
 - ・A・C測定のみ実施した場合は、「B・D測定値」の欄に斜線を引くこと。
 - ・A・C測定及びB・D測定の「区分」の欄は該当する項目を○で囲むこと。
- 管理濃度をE、A測定又はC測定の第1評価値をE₁、第2評価値をE₂として、E₁<Eならば「Ⅰ」、E₁≥E≥E₂ならば「Ⅱ」、E₂>Eならば「Ⅲ」、B測定又はD測定の測定値をCとして、C<Eならば「Ⅰ」、E×1.5≥C≥Eならば「Ⅱ」、C>E×1.5ならば「Ⅲ」が該当すること。
- ・管理区分の欄は該当する項目を○で囲むこと。

【事業場記入欄】

作業環境測定機関が記入するのではなく、次に掲げる事項について、【事業場記入欄】の作成者に説明すること。

- ・(1)の「A・C測定結果」及び「B・D測定結果」欄は、該当する年月の測定における該当項目を○で囲むこと。
- ・「衛生委員会、安全衛生委員会又はこれに準ずる組織の意見」、「産業医又は労働衛生コンサルタントの意見(第三管理区分改善困難等の場合は、作業環境管理専門家の意見)」欄には、この測定結果を基に、今後、改善していくべき点に対するそれぞれの立場からの具体的方法等を記載し、第三管理区分改善困難等の場合は、作業環境管理専門家の意見を記入すること。
- ・「作業環境改善措置の内容」欄には、その講じた措置の概要を具体的に記載すること。この際同一用紙上に記入できない場合には別紙として添付してもよいこと。

別紙 作業環境測定結果記録表

1 A及び1 Bページに掲げる表

No.	A	B
⑪	実施の項目別に業務に携わった作業環境測定士の氏名を記入すること。	
⑬		特定化学物質の第1類にあつては特1・第2類にあつては特2を、有機溶剤の第1種にあつては有1・第2種にあつては有2を、鉛にあつては鉛を、石綿にあつては石を、これら以外の物質についてはその他を○で囲むこと。
⑭	当該作業場で発散する物質の名称をクレ-、タルク、カーボンブラック、石英、亜鉛等具体的に記入すること。	通称(例えばクロム酸系顔料、ジアゾ染料、クリアラッカー、ゴム系接着剤等)を記入すること。
⑮	kg、L等单位も忘れずに記入すること。	
⑯	欠番	鉛にあつては、安衛法施行令別表第4、有機溶剤にあつては、有機則第1条第1項第6号に掲げる業務の記号を記入すること。
⑰	欠番	特定化学物質にあつては、安衛法施行令別表第3、有機溶剤にあつては、安衛法施行令別表第6の2に掲げる物質

		の名称、「その他」に○をつけた場合には、これらに準じて名称を記入すること。
⑮	欠番	㉔で有の場合、平成2年7月 17 日付け基発第 461 号通達を参照して算出した値を記入すること。
⑯	B測定値が2以上得られた場合には、そのうち最大の値が得られた日時等を記入すること。	
⑰	測定を実施した単位作業場所が分かるように番号等を記入すること。	
⑱	おおよその広さを記入すること。	
㉒	㉓の数と異なる場合のみ記入すること。記入しない場合には、「-」を記入すること。	
㉔	(1) 有害物の分布状況 ①発生源となる装置、作業等を全て記入する。 ②発生源に設置されている局所排気装置の吸引状況を記入する。 ③発生源からの発散状況・拡散要因・分布の範囲を記入する。 (2) 労働者の作業中の行動範囲 ①作業数と各作業者の作業内容を記入する。 ②作業者の行動範囲を記入する。 (3) 単位作業場所の範囲を決定した理由 (1) 有害物の分布状況又は(2) 作業者の行動範囲から決定したのか、あるいは(1)と(2) 両方を考慮して決定したのか等、最終的に決定した理由を記入する。また、単位作業場所の範囲を記入する(図面と整合していなければならない)。	
㉕	デザインを実際に行った作業環境測定士が、決定した理由を記述すること。 併行測定を行う測定点を決定した理由 ・発生源から発生した粉じんの粒径を記入する。 ・粉じんの分布状況とその要因となる気流の状況を記入する。 ・上記を判断材料として決定した適切な併行測定点と発生源との距離や位置関係を記入する(図面と整合していなければならない)。 ・当該測定点付近には併行測定に影響を与えるような強い気流がないことを確認した旨を記入する。	検知管法で測定できる有機溶剤等を測定する場合は、当該物質以外の物の測定値に影響を及ぼすおそれがある場合は認められていないが、特例許可を受けることにより、検知管法で測定できる。 ①デザインにおいて決定されたA測定点及びB測定点のうち、検知管による測定を行った結果、その指示値が最大の測定点、②前回の測定における各測定点のうち、測定値が最大の測定点のいずれかから決定したかを記入する。ただし、②の測定点を併行測定点とした場合に、当該測定点における検知管の指示値が①のA測定点及びB測定点の指示値に比べて著しく小さいときは、①の測定点を併行測定点とすること。
㉖	デザインを実際に行った作業環境測定士が、決定した理由を記述すること。 ①発生源に近接する場所において行われる作業を全て記入する。 ②上記作業が複数ある場合は、最も高濃度となる作業位置をB測定点とするが、高濃度になると判断した理由とB測定点の位置を記入する。濃度が最も高くなるとされる作業位置が決まらない場合は、該当する作業位置をすべて測定した結果から決めることを記入する(図面と整合していなければならない)。 ③決定したB測定点における作業中で最も高濃度になる時刻にB測定を実施するが、最も高濃度になる時刻と判断した理由を記入する。 ④ B測定を実施しなかった場合は、その理由を記入する。	
㉗	デザインを実際に行った作業環境測定士が、決定した理由を記述すること。 ①単位作業場所の広さが30 m ² 以下であることを記入する。 ②過去に実施した作業環境測定の記録により、測定値の幾何標準偏差が1.2 以下であることを記入する。	
㉘-②	A測定の測定点の間隔を6 m 超に決定した理由を記述すること。 ①過去に実施した作業環境測定の記録により、測定値の幾何標準偏差が1.2 以下であることを記入する。	
㉙	欠番	作業環境測定基準(昭和 51 年 4 月 22 日労働省告示第 46 号。以下「測定基準」という。)第 10 条第 3 項又は第 13 条第 3 項の規定に基づく所轄労働基準監督署長の許可(以下「監督署長許可」という。)を受けている場合に記入すること。

2 A・2 B ページに掲げる図面

- (1) 事業場名、作業場名を記入する。図面に関しては、測定実施時の単位作業場所及びその周囲との様子が理解できるように、〔記号〕を参照して、主要な設備、A測定点、B測定点、併行測定点、局所排気装置のフードの位置と種類、発生源の位置、気流の滞留状態、作業者の位置(固定位置や移動先位置)、単位作業場所の範囲、風速及び風向き等を記入すること。また、必要に応じ、全体換気装置、空調設備(換気扇、扇風機、ルーフファン等)、窓等の開口部等の位置等も記入すること。ただし、一つの作業場に単位作業場所が2以上ある場合には、単位作業場

所の位置関係が分かるような図又は単位作業場所の四方が仕切られていない場合には単位作業場所の周辺の作業場が分かるような図を併記すること。この際、同一用紙上に記入できない場合には別紙として添付してもよい。

単位作業場所の縦・横の寸法(縦と横の比は必ず同一とする)は必ず記入すること。

(2) その他必要とする記号等は、記号のところに必ず記号と説明とを記入すること。

(3) A測定を同一測定点で繰り返し行ったときは、3 A及び3 Bページの表の㉔中の測定点の番号と一致するように、図面には次のように記入すること。

i 測定点が1点の場合……………①～n

ii 測定点が2点以上の場合には次のように記入する。

①～n₁ n₁+1～n₂ n₂+1～n₃

(記録表)

㉔ 測定点番号
①
2
③
4
5
⑥
7

(図面)

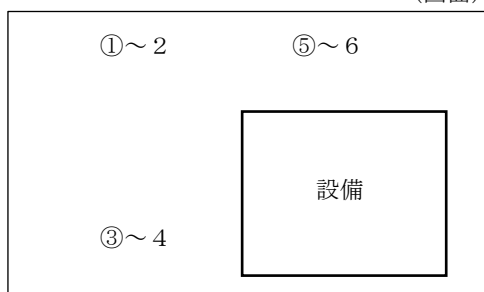
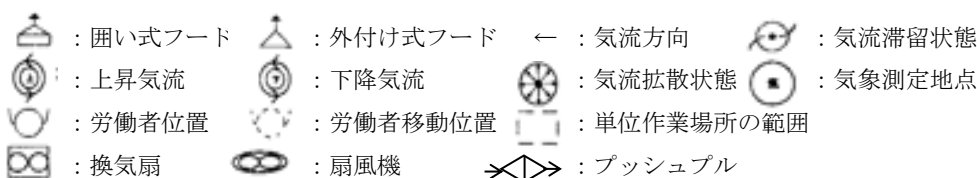


図1 繰り返し測定の記入例

(4) 設備等があつて測定が著しく困難な位置を除く場合には、その旨を(注)として記述すること。

〔記号〕 ①、②、③……：A測定点 ⑤：B測定点 ●：併行測定点 ☒：発生源



3 A及び3 Bページに掲げる表

3 Bページに掲げる表のみ

(1) 2日間測定を行う場合又は6物質(監督署長許可を受けている場合にあつては、5物質)以上の場合には、3 Bページを2枚用いて記録すること。

(2) 監督署長許可を受けている場合には、㉔に(検)と、㉕C_①に検知管の指示値を記入し、㉗ $\sum C_i E_i$ に測定値(換算値)を記録すること。

No.	A	B
㉔	欠番	㉗で記入した名称を記入すること。監督署長許可により検知管を用いて測定を行った場合は、第1欄(検)と記入すること。
㉕	欠番	作業環境評価基準(昭和63年労働省告示第79号。以下「評価基準」という。)別表に従って記入すること。
㉖	相対濃度の表示単位を記入すること。	欠番
㉔	A測定を同一測定点で繰り返し行ったときは、2 A及び2 Bページの図面中の測定点の番号と一致していること。監督署長許可により検知管を用いて併行測定を行った場合には、その測定点を○で囲むこと。	
㉕	相対濃度指示方法による測定の場合には、㉔の値を用いて質量濃度を求めて記入すること。	各測定点における有害物質の濃度を記入すること。監督署長許可により検知管を用いて測定を行った場合、検知管の指示値を記入すること。
㉖	欠番	各測定点における有害物質の濃度を各有害物質の管理濃度で除した値を記入すること。監督署長許可を受けている場合には、㉔の値を用いて換算値を求めて記入すること。
㉗	欠番	各測定点における有害物質の濃度を各有害物質の管理濃度で除した値の和を記入すること。
㉘	2以上の測定点においてB測定を実施した場合には、その値をそれぞれ記入すること。	
㉙	㉔の実際に測定した作業環境測定士が各項目について平易に記入すること。 〔作業工程と発生源及び労働者数〕	

有害物質が発生する作業工程を関連作業を含めて具体的に記載し、発生源となる設備や作業を全て明記し、労働者数(関連作業者数も含む)もこの欄に記載する。 〔設備、排気装置の稼働状況〕 有害物の発生に関わるような装置や設備及び局所排気装置や換気扇などの有害物の抑制に関わるような装置の稼働状況(稼働時間や稼働回数)を具体的に記入する。また、通常の稼働時との比較なども記載する。なお、排気装置が無い場合はその旨がわかるように記入する。 〔ドア、窓の開閉、気流の状況〕 どのドアや窓が開放され、どのように影響を与えているか具体的に記載する。エアコンや天井ファンなどによる気流の影響についても記入する。 〔当該単位作業場所の周辺からの影響〕 工場内の同じフロアに単位作業場所が2つ以上ある場合など、周辺の作業場からの影響について具体的に記入する。 〔各測定点に関する特記事項〕 ①他の測定点より高濃度又は低濃度になると思われる点については、作業による影響や局所排気装置などの稼働状況、設備からの漏洩の有無、サンプリングの順序など高濃度になる原因と考えられる事項を漏らさずに記入する。 ①B測定を検知管で行った場合、使用した検知管の数と測定方法(均等分割、連続)を記入することが望ましい。 〔天候、温度、湿度、気流〕 天候や作業場内の温湿度、気流の状態は、有害物質の発生量や拡散の状況などを把握する重要なデータなので実測値を記入する。

4 A及び4 Bページに掲げる表

4 Aページの「8 粉じん濃度の測定に使用した機器等」の測定方法別に該当する箇所記入をすること。ただし、イの測定はすべての測定点で質量濃度を測定する場合であること。併行測定を行った場合には、イ、ロに記入する。

2日間測定を行う場合には、4 Aページを2枚用いて記録すること。

No.	A	B
④①		該当する項目をすべて○で囲むこと。検知管を○で囲んだ場合、()内に使用した検知管を記入すること。その他を○で囲んだ場合には、()内に試料採取方法を記入すること。
④②		④①で○をつけたすべての方法について記入すること。捕集袋による採取の場合には、使用した捕集袋の容量も記入すること。
④③	吸入性粉じんの分粒特性を踏まえて設定した吸引流量を記入すること。	各労働者に装着したポンプの吸引流量を記入すること。(吸引流量が明らかでない場合は除く。)
④④	一つの試料の捕集に要した時間を記入すること。	
④④－(2)	使用した天秤の機器名と型式を記入すること。また、()内には読取限度を記入すること。	欠番
④④－(3)	使用したろ過材の名称と型式を記入すること。	欠番
④⑦	厚生労働大臣の登録を受けた者によって較正された年月日を記入すること。	一つの試料の捕集量を記入すること。検知管法の場合は使用した検知管1本あたりの捕集量を記入する。
④⑧		該当する項目を○で囲むこと。その他を○で囲んだ場合には()内に分析方法を記入すること。
④⑧－(2)	併行測定時間を記入すること。	欠番
④⑧－(3)	相対濃度計によるA測定点の測定時間を記入すること。また前の測定終了から次の測定開始までの間隔時間を()内に記入すること。(A測定のサンプリング時間に全測定点を乗じた数が10分以上になること。)	欠番

49-(2)	欠番	サンプリング試料の分析に係る前処理、分析等を実施した期間を記入すること。また（ ）内は実日数を記入すること。
51	〔 〕内には33で記入した単位を記入すること。	
52		混合有機溶剤の測定の場合は、換算値を記入すること。
53	捕集時間を記入すること。	
53-(2)	ろ過材に捕集された粉じんの質量を記入すること。	欠番
54		混合有機溶剤の測定の場合は、換算値変換係数を記入すること。
56	欠番	混合有機溶剤の測定の場合は、換算値を記入すること。
58	欠番	混合有機溶剤の測定の場合は、換算値変換係数を記入すること。
59	平成2年7月17日付け基発第462号通達の記の第1の2に示す値を記入すること。	欠番

5 A及び4 Bページに掲げる表

No.	A	B
61	定性分析・定量分析に該当する項目を○で囲むこと。その他を○で囲んだ場合には、（ ）内に測定方法を記入すること。	欠番
61-(2)	自機関又は外部委託の場合は、該当する項目を○で囲むこと。外部委託の場合は、委託機関名等を記入すること。	欠番
62	「試料の種類」、「粒度調整方法」のそれぞれについて該当する項目を囲むこと。	欠番
62-(2)	該当する物質を○で囲むこと。	欠番
62-(3)	定性分析で該当した物質の定量値を記入すること。	欠番
63	Qの値を求める場合には、計算に用いる各物質の値を（ ）内に記入のうえ、計算すること。	欠番
63-(2)	遊離けい酸含有率の測定に係る前処理、分析等を実施した期間を記入すること。また、（ ）内は実日数を記入すること。	欠番
71	評価値の計算に用いた「M」は、次式を用いて算出した値を記入すること。 (2日間の場合) $M = \sqrt{M_1 \cdot M_2}$ 又は $\log M = (\log M_1 + \log M_2) / 2$ (1日間の場合) $M = M_1$	
72	評価値の計算に用いた「σ」は、次式を用いて算出した値を記入すること。 (2日間の場合) $\log \sigma = \sqrt{(\log^2 \sigma_1 + \log^2 \sigma_2) / 2 + (\log M_1 - \log M_2)^2 / 2}$ (1日間の場合) $\log \sigma = \sqrt{\log^2 \sigma_1 + 0.084}$	
73	評価基準第3条に従って算出した第1評価値を記入すること。	
74	評価基準第3条に従って算出した第2評価値を記入すること。	
75	38に2以上の数値がある場合には、最大値を記入すること。ただし、定量下限の値に満たない場合は、定量下限の値を記入すること。	
81		〔 〕内は該当する項目を○で囲むこと。(混合有機溶剤の場合は無次元を○で囲むこと。)
82	該当する項目を○で囲むこと。	
83	該当する項目を○で囲むこと。	
84	該当する項目を○で囲むこと。	
85	評価を行った者の氏名を記入すること。	

1 C及び1 Dページに掲げる表

No.	C	D
-----	---	---

⑪	実施の項目別に業務に携わった作業環境測定士の氏名を記入すること。なお、当該作業環境測定士は個人サンプリング法について登録を受けている作業環境測定士とすること。	
⑬		特定化学物質の第1類にあつては特1・第2類にあつては特2を、有機溶剤の第1種にあつては有1・第2種にあつては有2を、鉛にあつては鉛を○で囲むこと。
⑭	当該作業場で発散する物質の名称をクレ-、タルク、カーボンブラック、石英、亜鉛、アーク溶接ヒューム等具体的に記入すること。	通称（例えばクロム酸系顔料、ジアゾ染料、クリアラッカー、ゴム系接着剤等）を記入すること。
⑮	kg、L 等单位も忘れずに記入すること。	
⑯	欠番	鉛にあつては、安衛法施行令別表第4、有機溶剤にあつては、有機則第1条第1項第6号に掲げる業務の記号を記入すること。
⑰	欠番	特定化学物質にあつては、安衛法施行令別表第3、有機溶剤にあつては、安衛法施行令別表第6の2に掲げる物質の名称を記入すること。
⑱	欠番	㉑で有の場合、平成2年7月 17 日付け基発第 461 号通達を参照して算出した値を記入すること。
⑲	最も早く測定を開始した労働者の測定開始時間と、最も遅く測定を終了した労働者の測定終了時間を記入すること。 例 労働者 A:9 時 00 分～15 時 00 分、労働者 B:10 時 00 分～17 時 00 分の場合、 開始時刻:9 時 00 分 終了時刻:17 時 00 分	
㉑	D 測定値が2以上得られた場合には、そのうち最大の値が得られた日時等を記入すること。	
㉑	測定を実施した単位作業場所が分かるように番号等を記入すること。	
㉒	おおよその広さを記入すること。	
㉔	㉓の数と異なる場合のみ記入すること。記入しない場合には、「-」を記入すること。	
㉕	デザインを実際に行った作業環境測定士が、次の事項を記入すること。 (1) 有害物の分布の状況 発生源の特定、有害物の拡散状況とその拡散範囲。 (2) 労働者の作業中の行動範囲及び作業時間 有害物にばく露する作業に従事するすべての労働者の行動範囲及び「㉑ C 測定のサンプリング計画」で必要となる作業時間。 (3) 単位作業場所の範囲を決定した理由 (1) 有害物の分布の状況及び(2) 労働者の作業中の行動範囲を踏まえた記載とすること。	
㉗	デザインを実際に行った作業環境測定士が次の項目について、決定した理由を含めて記述すること。 (1) 均等ばく露作業の内容及び場所 単位作業場所内の作業を特定し、単位作業場所における労働者の作業中の行動範囲、測定対象物質の分布等の状況等を踏まえて判断した内容。 (2) 均等ばく露作業内の試料採取機器装着者の人数及び作業内容 (1) で特定された均等ばく露作業の人数、作業内容。 (3) 試料採取等の時間（時刻） 単位作業場所の設定時に確認した作業時間を記載する他、休憩時間なども記載すること。 (4) 均等ばく露作業の労働者数が5人未満であつて、試料採取時間を均等に分割した場合は、採取試料数及び試料採取時間等。	
㉗-(2)	デザインを実際に行った作業環境測定士が、次の事項を記述すること。 (1) 作業の内容及び作業の反復する等労働者にばく露される化学物質等の濃度がほぼ均一であることが見込まれるものに該当する理由 (2) 試料採取時間（時刻）（2 時間を下回らない範囲内であること。）	
㉘	デザインを実際に行った作業環境測定士が決定理由を記述すること。 (3) の労働者番号は、「6 測定データの記録」〔D 測定データ〕に記入されたC _{D1} 、C _{D2} などとも一致させること。また、その労働者を選定した理由についても記載すること。複数の労働者に対してD測定を行った場合又は同一の労働者に複数のD測定を行った場合は、その旨がわかるように記載すること。	
㉙	欠番	監督署長許可を受けている場合に記入すること。

2C・2Dに掲げる図面

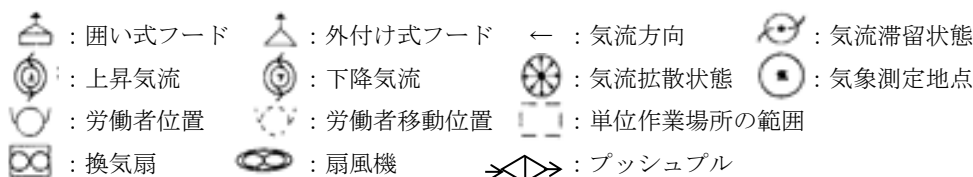
- (1) 事業場名、作業場名を記入する。図面に関しては、測定実施時の単位作業場所及びその周囲との様子が理解

できるように、〔記号〕を参照して、主要な設備、C測定 of 労働者、D測定 of 労働者、局所排気装置 of フードの位置、気流の滞留状態、労働者の位置、単位作業場所の範囲、風速及び風向き等を記入すること。また、必要に応じ、発生源、全体換気装置、窓等の開口部等の位置等も記入すること。労働者の移動は矢印を用いて、両方向の移動は「<……>」、片方向の移動は「<……」のように表記すること。ただし、一つの作業場に単位作業場所が2以上ある場合や単位作業場所が複数の作業場にまたがる場合には、単位作業場所の位置関係が分かるような図又は単位作業場所の四方が仕切られていない場合には単位作業場所の周辺の作業場が分かるような図を併記すること。この際、同一用紙上に記入できない場合には別紙として添付してもよい。

(2) その他必要とする記号等は、記号のところに必ず記号と説明とを記入すること。

(3) C測定を同一労働者について繰り返し行ったときは、図面には繰り返し測定 of 番号は記入せずに労働者番号(①、②、③・・)のみを記入する。なお、図面 of C測定 of 労働者番号が3Cページ of 表 of ③④中 of No. (労働者番号)と一致するように、「②⑦ C測定 of サンプルング計画」でその関係を明確にしておくこと。D測定 of 対象労働者 of 表記は、D1、D2とすること。C測定とD測定を同一労働者について実施した場合は、その労働者にC測定 of 労働者番号とD測定 of 対象労働者 of 表記を行う(①D1 など)。なお、D測定 of 対象労働者 of 表記は、3Cページ of 表 of ③⑧中 of D測定データ of 表記(C_{D1}・・)と一致させること。

〔記号〕 ①、②、③……：C測定 of 労働者 ⑩：D測定 of 労働者 ㊦：発生源



3C・3Dページに掲げる表

- (1) 2日間測定を行う場合又は6物質(監督署長許可を受けている場合にあつては、5物質)以上の場合には、3Cページを2枚用いて記録すること。
- (2) 監督署長許可を受けている場合には、③⑩に(検)と、③⑤C_⑩に検知管 of 指示値を記入し、③⑦ $\sum C_{Di}$ に測定値(換算値)を記録すること。

No.	C	D
③⑩	欠番	⑩⑦で記入した名称を記入すること。監督署長許可により検知管を用いて測定を行った場合は、第1欄に(検)と記入すること。
③⑪	欠番	評価基準表に従って記入すること。
③⑬	相対濃度 of 単位を記入すること。	欠番
③⑭	C測定を同一労働者に対して繰り返し行ったときは、2C及び2Dページ of 図面中 of 労働者番号と3C及び3Dページ of 表 of ③④中 of No. (労働者番号) of 関係が「②⑦ C測定 of サンプルング計画」で確認できるようになっていること。	監督署長許可により検知管を用いて併行測定を行った場合には、そのNo.の横に(検)と記入すること。
③⑮	相対濃度指示方法による測定の場合には、③⑭の値を用いて質量濃度を求めて記入すること。	各労働者 of 有害物質 of 濃度を記入すること。 監督署長許可により検知管を用いて測定を行った場合、検知管 of 指示値を記入すること。
③⑯	欠番	各労働者 of 有害物質 of 濃度を各有害物質 of 管理濃度で除した値を記入すること。監督署長許可を受けている場合には、③⑭の値を用いて換算値を求めて記入すること。
③⑰	欠番	各労働者 of 有害物質 of 濃度を各有害物質 of 管理濃度で除した値 of 和を記入すること。
③⑱	2人以上 of 労働者においてD測定を実施した場合には、その値をそれぞれ記入すること。	

4C及び4Dページに掲げる表

No.	C	D
④⑨	④⑩の実際に測定した作業環境測定士が各項目について平易に記入すること。 〔作業工程と発生源及び労働者数〕 有害物質が発生する作業工程を関連作業を含めて具体的に記載し、発生源となる設備や作業を全て明記し、労働者数(関連作業者数も含む)もこの欄に記載すること。	

〔設備、排気装置の稼働状況〕
 有害物の発生に関わるような装置や設備及び局所排気装置や換気扇など有害物の抑制に関わるような装置の稼働状況（稼働時間や稼働回数）を具体的に記入すること。また、通常の稼働時との比較なども記載すること。なお、排気装置が無い場合はその旨がわかるように記入すること。

〔ドア、窓の開閉、気流の状況〕
 どのドアや窓が開放され、どのように影響を与えているか具体的に記載すること。エアコンや天井ファンなどによる気流の影響についても記入すること。

〔当該単位作業場所の周辺からの影響〕
 他の作業場からの影響のほか、単位作業場所以外でも吸引ポンプを継続してオンにして測定する場合、単位作業場所以外で、測定対象物質のばく露がないことや妨害物質がないことを判断した理由などを記述すること。もし、測定中に天候、温度、湿度、気流の急激な変化により測定に影響を及ぼした場合は、その試料採取時間内の変化の状況を記載すること。

〔各労働者のサンプリング状況、試料採取機器装着者の労働者番号と測定データ番号の対応関係〕には、〔C測定データ〕の④のNo.（労働者番号）ごとに測定開始時刻と測定終了時刻を記入すること。
 なお、以下のように表形式で記載することも可能であること。

（記載例）

No.（労働者番号）	回数	作業の内容	作業時間	試料採取時間（時刻）	特記事項
1（1）	1	吹付け塗装	9：00～16：00	9：00～12：00	塗料の吹き返しあり
2（1）	2	吹付け塗装	9：00～16：00	13：00～16：00	
3（2）	1	吹付け塗装	9：00～16：00	9：00～12：00	
4（2）	2	吹付け塗装	9：00～16：00	13：00～16：00	
5（3）	1	吹付け塗装	9：00～16：00	9：00～12：00	
6（3）	2	吹付け塗装	9：00～16：00	13：00～16：00	

5C、6C及び5Dページに掲げる表

No.	C	D
④①		該当する項目をすべて○で囲むこと。検知管を○で囲んだ場合、（ ）内に使用した検知管を記入すること。その他を○で囲んだ場合には、（ ）内に試料採取方法を記入すること。
④②		④①で○をつけたすべての方法について記入すること。 捕集袋による採取の場合には、使用した捕集袋の容量も記入すること。
④③	各労働者に装着したポンプの吸引流量を記入すること。（吸引流量が明らかでない場合は除く。）	
④④	一つの試料の捕集に要した時間を記入すること。ただし、④③で労働者ごとのサンプリング状況を記載した場合は、記入しなくてもよい。	
④④－(3)	使用したろ過材の名称と型式を記入すること。	欠番
④⑦	厚生労働大臣の登録を受けた者によって較正された年月日を記入すること。	一つの試料の捕集量を記入すること。検知管法の場合は使用した検知管1本あたりの捕集量を記入する。
④⑧		該当する項目を○で囲むこと。その他を○で囲んだ場合には（ ）内に分析方法を記入すること。
④⑧－(2)	併行測定時間を記入すること。	欠番
④⑧－(3)	相対濃度計による C 測定点の測定時間を記入すること。	欠番
④⑨－(2)	欠番	サンプリング試料の分析に係る前処理、分析等を実施した期間を記入すること。また（ ）内は実日数を記入すること。
⑤①	〔 〕内には④③で記入した単位を記入すること。	
⑤②		混合有機溶剤の測定の場合は、換算値を記入すること。
⑤③	捕集時間を記入すること。	

㉔－(2)	ろ過材に捕集された粉じんの質量を記入すること。	欠番
㉕		混合有機溶剤の測定の場合は、換算値変換係数を記入すること。
㉖	欠番	混合有機溶剤の測定の場合は、換算値を記入すること。
㉗	欠番	混合有機溶剤の測定の場合は、換算値変換係数を記入すること。
㉘	平成2年7月17日付け基発第462号通達の記の第1の2に示す値を記入すること。	欠番
㉙	測定方法を○で囲むこと。その他を○で囲んだ場合は、()内に測定方法を記入すること。	欠番
㉚－(2)	自機関又は外部委託の場合は、該当する項目を○で囲むこと。外部委託の場合は、委託機関名等を記入すること。	欠番
㉛	「試料の種類」、「粒度調整方法」のそれぞれについて該当する項目を囲むこと。	欠番
㉜－(2)	定性分析で該当する物質を○で囲むこと。	欠番
㉜－(3)	定量分析で該当した物質の定量値を記入すること。	欠番
㉝	Qの値を求める場合には、計算に用いる各物質の値を()内に記入のうえ、計算すること。	欠番
㉞－(2)	遊離けい酸含有率の測定に係る前処理、分析等を実施した期間を記入すること。また、()内は実日数を記入すること。	欠番
㉟	評価値の計算に用いた「M」は、次式を用いて算出した値を記入すること。 (2日間の場合) $M = \sqrt{(M_1 \cdot M_2)}$ 又は $\log M = (\log M_1 + \log M_2) / 2$ _____ (1日間の場合) $M = M_1$	
㊱	評価値の計算に用いた「σ」は、次式を用いて算出した値を記入すること。 (2日間の場合) $\log \sigma = \sqrt{((\log^2 \sigma_1 + \log^2 \sigma_2) / 2 + (\log M_1 - \log M_2)^2 / 2)}$ (1日間の場合) $\log \sigma = \sqrt{(\log^2 \sigma_1 + 0.084)}$	
㊲	評価基準第3条に従って算出した第1評価値を記入すること。	
㊳	評価基準第3条に従って算出した第2評価値を記入すること。	
㊴	㉞に2以上の数値がある場合には、最大値を記入すること。ただし、定量下限の値に満たない場合は、定量下限の値を記入すること。	
㊵		〔 〕内は該当する項目を○で囲むこと。(混合有機溶剤の場合は無次元を○で囲むこと。)
㊶	該当する項目を○で囲むこと。	
㊷	該当する項目を○で囲むこと。	
㊸	該当する項目を○で囲むこと。	
㊹	評価を行った者の氏名を記入すること。	